
三重県景気動向調査 中間報告書

平成 25 年第 3 回(7~9 月期)



三重県雇用経済部

調査実施機関 株式会社 東京商工リサーチ 津支店

目 次

I. 調査要領.....	1
II. 調査結果の概要.....	2

I. 調査要領

1. 調査時点：平成 25 年 8 月（前期＝25 年 4～6 月、今期＝25 年 7～9 月、来期＝25 年 10～12 月（予測））
2. 調査対象：三重県内の事業所 1,500 社
3. 調査方法：郵送によるアンケート調査
4. 回答状況：454 件（有効回答率 30.2%）
5. 調査企業の業種別、従業員規模別、地域別内訳

【業種別】

	件数 合計	製造業	建設業	運輸業	情報 通信業	卸・小売業	金融・ 保険業	サービス業
調査対象数	1,500	502	150	89	29	361	24	345
回答数	454	155	61	32	6	99	10	91
構成比(%)	100.0	34.1	13.4	7.0	1.3	21.8	2.2	20.0

【従業員規模別】

	件数 合計	5 人未満	5 人以上 20 人未満	20 人以上 50 人未満	50 人以上 100 人 未満	100 人以上 300 人 未満	300 人以上 500 人 未満	500 人以上 1000 人 未満	1000 人 以上
調査対象数	1,500	303	566	251	126	153	46	29	26
回答数	454	62	131	95	66	61	21	6	12
構成比(%)	100.0	13.7	28.9	20.9	14.5	13.4	4.6	1.3	2.6

【地域別】

	件数 合計	津	四日市	松阪	伊勢	桑名	鈴鹿	伊賀	尾鷲	熊野
調査対象数	1500	200	345	192	229	174	174	122	44	20
回答数	454	67	111	63	58	58	52	31	10	4
構成比(%)	100.0	14.8	24.4	13.9	12.8	12.8	11.5	6.8	2.2	0.9

地域名	対象市町	地域名	対象市町
津	津市	鈴鹿	鈴鹿市・亀山市
四日市	四日市市・菟野町・朝日町・川越町	伊賀	伊賀市・名張市
松阪	松阪市・多気町・明和町・大台町	尾鷲	尾鷲市・紀北町
伊勢	伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・ 南伊勢町・度会町・大紀町	熊野	熊野市・御浜町・紀宝町
桑名	桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町		

【注】

○構成比(%)については、小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

○数値の前に付した△は「マイナス」を表しています。

○ODI (Diffusion Indexの略)

DI (ディーアイ) は、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらかの力が強いかを比べて変化の方向をみようとするものです。

なお、「仕入価格 DI」については、「低下」から上昇を引いた値、「雇用（人員過不足感）DI」、「在庫 DI」については、「不足」から「過剰」を引いた値を使用しています。

●平成 23 年 7～9 月以降の数値は、不明回答を除く回答結果で算出しておしているため、平成 24 年 5 月調査以前の公表結果とは一致しません。

II. 調査結果の概要

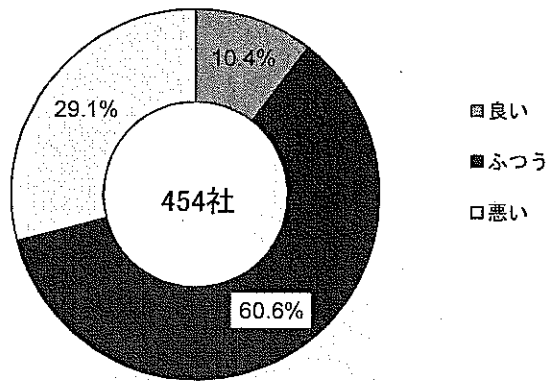
1. 景況感

「今期（平成 25 年 7～9 月）の県内景気」の水準について、「良い」は 10.4%、「ふつう」は 60.6%、「悪い」は 29.1%となっています。

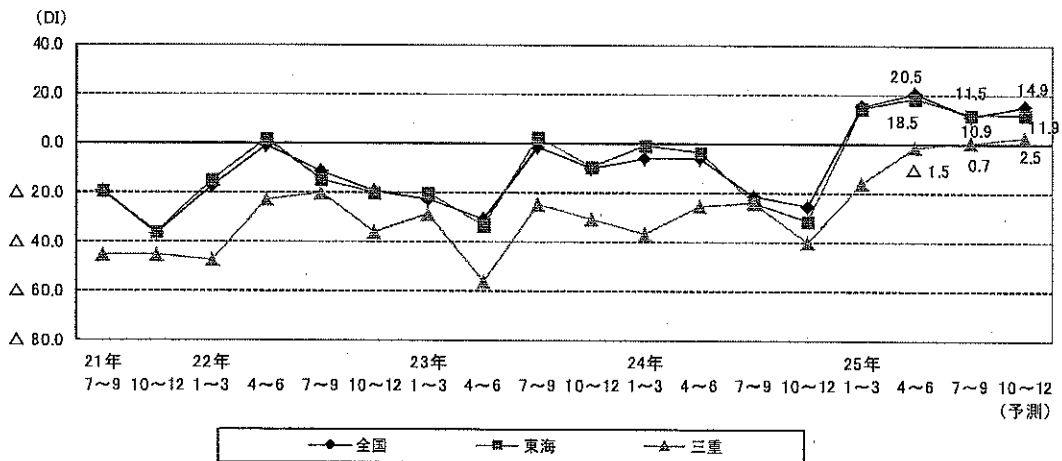
前期（平成 25 年 4～6 月）と比較した「県内景況感 DI」は、今期はプラス 0.7 ポイントで、前期より 2.2 ポイント上昇し、水面下を脱してプラスに転じました。来期はプラス 2.5 ポイントと今期より 1.8 ポイント上昇し、今期同様の水準が続くと見込まれています。

内閣府『景気ウォッチャー調査』の全国と東海地方の景況感（7月調査）をみると、いずれも現状は好調感が縮小しています。先行きの見通しは全国がやや回復し、東海は横這いでの推移としています。

今期の県内景気(水準)



県内景況感 DI(前期比)と全国・東海地方の景況感



	21年	22年	23年		24年		25年		10～12
	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	(予測)
三重県	△ 45.9	△ 45.6	△ 47.6	△ 23.2	△ 20.3	△ 36.0	△ 29.2	△ 56.0	△ 25.3
全国	△ 19.5	△ 37.3	△ 17.9	△ 0.7	△ 11.4	△ 19.4	△ 22.7	△ 30.7	△ 1.8
東海	△ 19.6	△ 36.2	△ 15.0	1.3	△ 14.7	△ 20.2	△ 20.1	△ 33.7	2.2

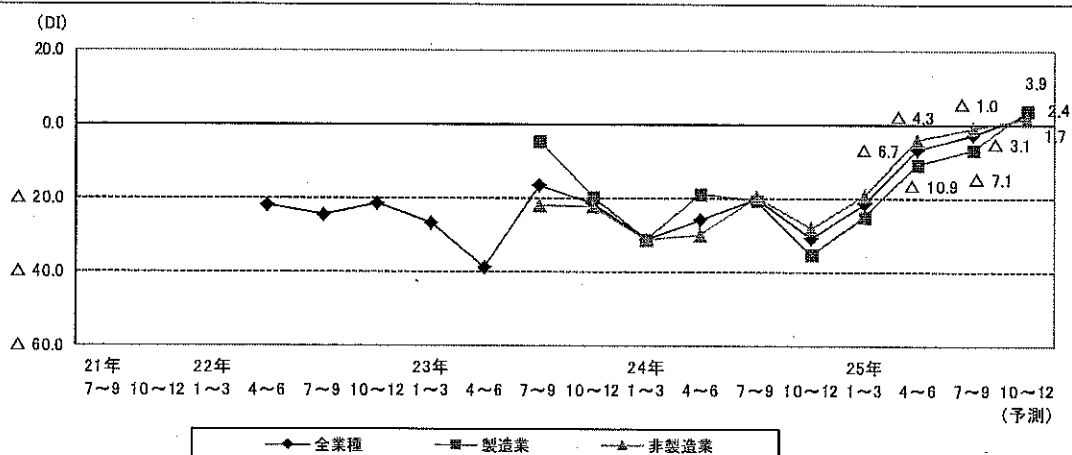
※景況感 DI=前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

※「全国」および「東海地方」は、内閣府『景気ウォッチャー調査』の月々の結果を当調査で使用している方法で再計算し、3ヶ月ごとに平均値を算出。なお、直近の値は7月調査の値である。

2. 業況 DI

自社の業況についてみた「業況 DI」(前期比)は、全業種でマイナス 3.1 ポイントとなり、前期から 3.6 ポイント上昇しました。来期はプラス 2.4 ポイントとさらに上昇し、水面下から抜け出すまでに好転することが予想されています。製造業はマイナス 7.1 ポイントと前期から 3.8 ポイント、非製造業はマイナス 1.0 ポイントと前期から 3.3 ポイントの改善となりました。製造業、非製造業ともに、来期は水面下を脱し、好調に転じる見通しとなっています。

業種別業況 DI(前期比)の動き(実績)と来期の予測



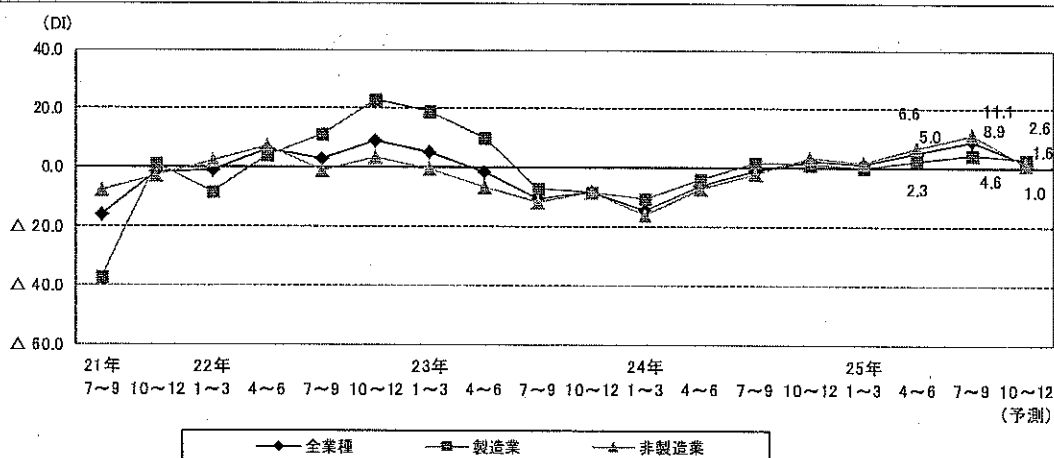
	21年		22年		23年		24年		25年		25年		25年		25年		
	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	
全業種				△ 21.9	△ 24.5	△ 21.5	△ 26.9	△ 39.1	△ 16.6	△ 21.7	△ 31.3	△ 26.1	△ 20.2	△ 30.8	△ 21.4	△ 6.7	△ 3.1
製造業									△ 4.5	△ 19.8	△ 31.3	△ 18.8	△ 20.7	△ 35.4	△ 25.0	△ 10.9	△ 7.1
非製造業									△ 22.1	△ 22.5	△ 31.3	△ 29.9	△ 19.8	△ 28.3	△ 19.5	△ 4.3	△ 1.0

※業況 DI=前期比で、自社の業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

3. 収益 DI

「収益 DI」は、全業種で今期はプラス 8.9 ポイントとなり、前期から 3.9 ポイント上昇しました。来期はプラス 1.6 ポイントと大きく後退する見通しです。製造業は、今期がプラス 4.6 ポイント、来期がプラス 2.6 ポイントで、非製造業は、今期がプラス 11.1 ポイント、来期がプラス 1.0 ポイントの見通しとなっており、来期見通しは製造業が非製造業を上回ると予想されています。

業種別収益 DIの動き(実績)と来期の予測

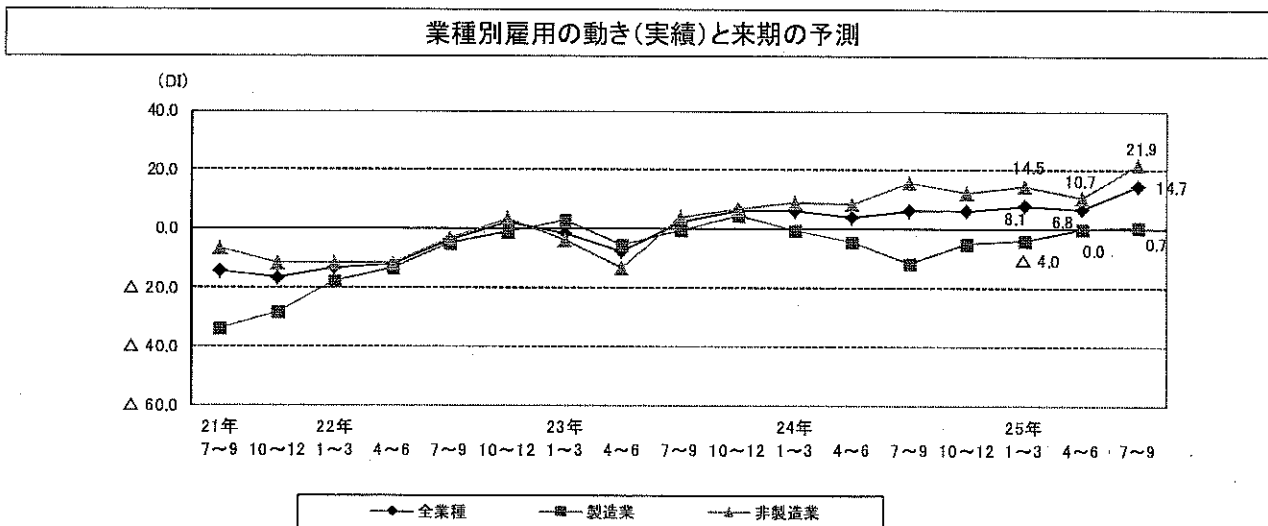


	21年		22年		23年		24年		25年		25年		25年		25年	
	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
全業種	△ 16.3	△ 1.7	△ 0.9	6.3	2.8	8.9	4.9	△ 1.8	△ 10.4	△ 8.1	△ 14.3	△ 6.1	△ 0.8	2.4	1.2	5.0
製造業	△ 37.3	0.9	△ 8.3	4.1	11.4	23.0	18.8	10.3	△ 7.2	△ 8.2	△ 10.7	△ 3.8	1.7	1.1	0.0	2.3
非製造業	△ 7.9	△ 3.0	2.1	7.3	△ 0.8	3.4	△ 0.4	△ 6.6	△ 11.9	△ 8.1	△ 15.9	△ 7.4	△ 1.9	3.2	1.7	6.6

※収益 DI=収益が「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値。

4. 雇用(人員過不足感)DI

「雇用(人員過不足感)DI」は、全業種でプラス14.7ポイントとなり、不足感が大幅に強まりました。製造業は0.7ポイントと前期同様の水準で推移し、非製造業はプラス21.9ポイントと前期から11.2ポイント上昇しました。



	21年 7~9	21年 10~12	22年 1~3	22年 4~6	22年 7~9	22年 10~12	23年 1~3	23年 4~6	23年 7~9	23年 10~12	24年 1~3	24年 4~6	24年 7~9	24年 10~12	25年 1~3	25年 4~6	25年 7~9
全業種	△14.7	△16.9	△13.4	△12.3	△3.7	2.2	△1.7	△8.0	2.3	6.2	6.2	4.0	6.3	6.1	8.1	6.8	14.7
製造業	△34.3	△28.6	△17.7	△13.4	△4.7	△1.0	3.1	△5.8	△0.7	4.5	△0.7	△4.4	△11.6	△4.9	△4.0	0.0	0.7
非製造業	△6.8	△11.8	△11.7	△11.8	△3.2	3.5	△3.6	△13.4	3.7	7.0	9.2	8.4	15.5	12.4	14.5	10.7	21.9

※雇用(人員過不足感)DI=今期の人員が「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値。

5. 要約

前期と比べた県内景況感DIは、輸出や生産の堅調な推移を受け、今期は水面下を脱しプラスに転じました。来期も今期同様の水準で推移する見通しとなっています。

業況DIについては、今期は若干改善し、さらに来期は水面下を脱するまで好転する見通しとなっています。業種別にみると、今期は金融・保険業、サービス業を除く全ての業種で改善・良化傾向がみられ、特に運輸業、情報通信業は良好感が大幅に強まっています。来期については、製造業、サービス業が水面下を脱してプラスに転じ、また運輸業はさらに良好感が大きく強まる見通しとなっています。一方、金融・保険業は引続き好調感が縮小する見通しとなっています。

収益DIについては今期・来期見通しともプラスとなり、5期連続でプラスを維持する見通しとなっています。

雇用DIは不足感が大きく強まりました。設備投資意欲DIは、今期・来期見通しともにほぼ横這いで推移し、また上半期(4~9月)における設備投資計画額DI(前年同期比)も前期同様の上昇が続いています。今春の1人当たり平均昇給額では、「1,000円以上2,000円未満」と回答した企業が15.3%となりました。